Kanzeryu

Ryokusenkai

2020 1st 2/15 Sat

能 Noh …… 西行櫻 Saigyohzakura …… 中所　宜夫

狂言 Kyougen …… 佐渡狐 Sadogitsune …… 三宅　右近

能 Noh …… 善知鳥 Utoh …… 坂　真太郎

観世流

緑泉会

令和二年　第一回例会

二月十五日（土）

午後一時開演

喜多六平太記念能楽堂

西行櫻　シテ・津村禮次郎　撮影・吉越スタジオ

令和二年度　第一回例会　番組

能　西行櫻

老桜ノ精　中所　宜夫
西行上人　森　常好
花見人　大日方　寛
花見人　梅村　昌功
花見人　野口　能弘
花見人　野口　琢弘
能力　三宅　右矩
後見　河井　美紀
後見　津村　禮次郎
大鼓　安福　光雄
小鼓　幸　正昭
太鼓　林　雄一郎
笛　竹市　学
地謡　新井　麻衣子
地謡　杉澤　陽子
地謡　佐久間　二郎
地謡　鈴木　啓吾
地謡　桑田　貴志
地謡　永島　充

【休憩十五分】

狂言　佐渡狐

奏者　三宅　右近
佐渡の百姓　三宅　近成
越後の百姓　三宅　右矩

仕舞

弓八幡　杉澤　陽子
采女　墨　敬子
昭君　津村　禮次郎
笛　井　陽子
地謡　桑田　貴志
地謡　永島　充
地謡　石井　寛人

【休憩十分】

能　善知鳥

千代童　坂　瞳子
猟師ノ妻　河井　美紀
猟師　坂　真太郎
旅僧　舘田　善博
所ノ者　前田　晃一
大鼓　柿原　弘和
小鼓　曽和　正博
笛　藤田　次郎
地謡　石井　寛人
地謡　筒井　陽子
地謡　藤村　答
地謡　吉留　敬高
地謡　佐久間　二郎
地謡　中所　宜夫
地謡　津村　禮次郎
地謡　永島　充
後見　新井　麻衣子
後見　鈴木　啓吾

附祝言

【終了予定午後四時三十分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。
演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

能…西行櫻（さいぎょうざくら）

舞台に桜で飾られた山の作り物に続き、西行法師（ワキ）が登場するとそこは都西山の西行の庵室となる。下京に住み、春になると山野に花を尋ね廻る者たち（ワキツレ）が登場し、その庵の花を見ようと連れ立ってやって来る。わざわざやって来た労に報いて招き入れる西行だったが、人々の賑いに俗世の煩わしさを思い出し、思わず一首の歌を読む。「花見んと群れつつ人の来るのみぞあたら桜の咎にはありける」

やがて夜となり人々と共に眠りにつく西行だったが、気がつくと一人となり、桜の老木の空洞から白髪の老人（シテ）が現れて、先ほどの自分の歌を詠じている。不審する西行に老人は桜の精だと明かして、「憂き世と見るも山と見るも、ただその人の心にあり」と理を説いて戒める。西行が「草木国土悉皆成仏」の経文に思い至り読経合掌すると、老桜の精はこれを喜び、花を歌う詩歌を連ねる。都の桜の有様を歌い始めると興に乗って舞を舞う。時は移り夜も終りに近づけば、西行との名残りを惜しみ、その心をゆったりとした笛の舞（序之舞）に舞う。とうとう夜が明け始めた。いよいよ別れの時かと思いつつ、まだまだと思っているうちに夜は明ける。

終曲の一節に、白楽天が「花を踏んでは同じく惜しむ少年の春」と詠んだ春の夜は明けて「翁さびて跡もなし」（老人は消えてしまった）と謡われる。少年世阿弥が歌を学んだ二条良基の姿をこの老桜の精に重ねるのはうがち過ぎだろうか。

狂言…佐渡狐（さどぎつね）

年貢を納めに都へ上る途中に一緒になった、佐渡の百姓と越後の百姓。佐渡には何でもあると自慢する佐渡の百姓に、狐はいないだろうと詰め寄る越後の百姓。どうしてもいると言い張るので奏者に判定を頼むことにするが…。

仕舞

弓八幡（ゆみやわた）

争いのない代が到来した。岩清水八幡の神勅を勅使に伝えるため、高良（かわらのしん）の神が姿を現せば、畜類鳥類鳩吹く松の風まで神体の輝きを見せる。

采女（うねめ）

奈良の都の頃天皇を思慕して叶わず、猿沢の池に身を投げた采女の幽霊が僧の弔いを受けて現れる。国土平安の静けさの中、猿沢の池の面で遊楽の夜を過すのは仏を敬う功徳であると告げて、再び波の底に入ってゆく。

昭君（しょうくん）

昔中国の漠の国。昭君は王宮に上ったが外交の取引で匈奴の呼韓邪単于（こかんやぜんう）に使わされ、その地で亡くなってしまう。悲しむ昭君の父母は鏡に娘の面影を求めるが、娘に続いて現われたのは単于であった。単于は鬼の姿で義父母に対面したことを恥じて立ち帰り、跡には昭君の面影が残った。

能…善知鳥（うとお）

陸奥（みちのく）の外の浜には善知鳥という鳥がいる。漁師は親鳥を真似て「うとお」と呼び、砂中の子が「やすかた」と答えて巣から出てくるところを獲る。親鳥は頭上で血の涙を流し、それが身体に毒となるため、漁師は蓑笠を纏う。

まず諸国一見の僧（ワキ）が登場し、外の浜に向かう途次、立山の地獄巡りに赴くと、一人の亡者（前シテ）に呼び止められ、外の浜の妻子を尋ねて蓑笠を手向けるよう言伝てる。入替りに舞台には母と子（ツレと子方）が静かに登場して座つく。この一隅は亡くなった猟師の家である。

僧は託された衣の袖を持って妻子を尋ねる。悲しみに沈む二人に言伝てをし衣の袖を示すと、確かに亡き漁師に間違いないと、そのまま弔いとなり蓑笠を手向けた。

その供養に引かれて猟師の亡霊が現れる。供養の功徳でも浮かみ得ない重い罪科に苦しんでいる。亡者は過して来た日々を思い返す。明けても暮れても夢中になって殺生を営んでいたが、中でも善知鳥の親鳥が空から降らす血の涙はあたりを一面に染めて凄惨な有様だった。死後はそれがそのまま自分への責め苦となり、善知鳥は怪鳥となって襲いかかる。猟師の霊はなおも僧に供養を頼んで姿を消す。

世阿弥が下賤の者をシテにして作った数少ない曲の一つ。

第１回例会

2020.
2.15（土）PM1:00（開場 12:00）

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9
☎ 03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩７分
香港園手前の道を左折し約 400m 直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※ 駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

入場料

会員券（年４回）　一般 20,000 円　学生 10,000 円
１回券（当日券）　一般 6,000 円　学生 3,000 円

申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

中所 宜夫　TEL&FAX 042-550-4295
坂 真太郎　TEL 03-3873-5404
FAX 03-3873-5635

令和２年　第２回例会　5 月 16 日（土）

能…　籠太鼓 Routaiko …… 杉澤 陽子
能…　鵺 白頭 Nue shirogashira …… 鈴木 啓吾